日本鱗翅学会略史

昭和20年（1945年）——昭和36年（1961年）

昭和20年（1945年）

9月1日 岡田慶夫 日本鱗翅目学会（Nippon Lepidopterological Society）を創立， 事務所を京都市右京区嵯峨柳田町19 岡田方におく．

11月25日 日本鱗翅目学会会報（Transactions of the Nippon Lepidopterological Society）第1巻第1号（活版，B5版，26頁）を発行，巻頭に創刊の辞（9月1日付）を掲げ，設立の趣旨を明らかにした．又5条よりなる会則を掲載，入会金2円，会誌代は実費清算制．

昭和21年（1946年）

6月30日 日本鱗翅目学会研究報告（Bulletin of the Lepidopterological Society of Japan）第1巻第1—2号（活版，B5版，59頁）を発行，この時から学会の欧名は Lepidopterological Society of Japan と変更．

10月1日 日本鱗翅目学会研究報告第1巻第4号を発行．以後戦後の経済混乱が激化し，学会の経理状況は悪化，会誌の発行は不可能となった．

昭和22年（1947年）

学会の活動はほとんど停止．

昭和23年（1948年）

6月15日—17日 京都市丸物百貨店において「世界の蝶蛾を探る展覧会」を開催．本会主催による最初の展覧会であった．

7月13日—18日 京都市大丸百貨店において京都新聞社等の後援により京都理科研究会と共催で「昆虫展」を開催．

昭和24年（1949年）

11月30日 経済事情は漸く落ついてきたので再び会誌の発行を計画，経理状態を考慮し，″研究報告″の発行は当分中止し，″会報″は規模を縮少して発行することとし，11月30日 日本鱗翅目学会会報第1巻第2号（活版，アート紙使用，B5版， 8頁）を発行した． 本号より会報に″蝶と蛾″（欧名 Butterflies and Moths）の名をつけた．入会金は物価の変動に伴い，**11月1日**以降50円とし，会報代は従来通り実費清算制とした．

昭和25年（1950年）

8月1日 ようやく″蝶と蛾″第1巻第3号を発行．依然として経理状況が悪いため同人組織による会報発行を公表した．同人は秦 凱彦，岡田慶夫，岡垣 弘，林 久男，塚本珪一の5名．

昭和26年（1951年）

2月1日 ″蝶と蛾″第2巻第1号を発行（年号と巻数を一致させるために第1巻第4号は発行せず）．学会の発展策を検討，従来のやり方を全面的に改めることになった．即ち健全な会組織に戻るため同人組織を廃止．従来の会誌代実費清算制をやめ，入会金の徴収も同時に廃止，会費制とし， 会費を年額200円と定めた．なお会費納入の便宜を図るため振替口座（京都15914番）に加入した．

このように会費制としたが，経理状況が大幅に改善されるとは思われないので，幹事から特別会費（月額500円）の取立を行うことになった．

昭和27年（1952年）

3月 柴谷篤弘，井上 寛両氏の斡旋により東京の蛾類同志会との合同が提案されたので，岡田慶夫，岡垣弘， 緒方正美の3名が上京，国立科学博物館において蛾類同志会側と会談， 会名は″日本鱗翅目学会″，会誌は″蝶と蛾″とし，会誌編集は東京・京都で交互に行うこと，学会の経理状況のよくなるまで幹事の特別会費徴収

を行うことなどの申し合せが成立した.

4月 岡田慶夫の図案による会章を制定,″蝶と蛾″第3巻第1号に発表した.

昭和28年 (1953年)

2月 事務所を京都市下京区油小路仏光寺下ル 秦 凱彦方に移した.

3月1日 蛾類同志会との合同は前年春の申し合せにかかわらず,同会の事情により結局白紙にかえすことになり,両会共存の確認,問題の円満解決のため東京日本橋白木屋において両会合同の集談会を行った.

この件のため昭和27年度の″蝶と蛾″は第3巻第1号が発行されたままであったので,この問題の解決後″蝶と蛾″の発行遅延をとりもどすべく努力し,7月には第4号を発行して第3巻を完結,つづいて第4巻の発行にうつった.

9月10日 ″蝶と蛾″第4巻第1号を発行.この号より第1頁目のタイトルの体裁を変更した.

10月—11月 学会の発展のため会則の全面的改正を行うことになり,緒方正美起草の会則案を幹部の春田俊郎,秦 凱彦,林 久男,堀尾貞太郎,井上 寛,井上宗二,磐瀬太郎,小林 洋,六浦 晃,緒方正美,岡田慶夫,岡垣 弘,塚本珪一の13名で検討,11月15日 27条よりなる新会則を決定し,従来の会則は廃止した.

12月 この月現在で会員名簿を作成,在籍会員106名.

昭和29年 (1954年)

2月 ″蝶と蛾″第4巻第4号とともに会員に新会則を送付.会則に従い評議員会は会長に九州大学農学部の江崎悌三教授を推薦.会費は年額250円となった.なお″蝶と蛾″補遺として Recent Japanese Literature on Lepidoptera を発行.日本で発表された鱗翅類に関する主要文献の紹介を行うことになった.

3月11日 会則第13条により会員の承認をうけ,江崎悌三教授の会長就任決定.

4月11日 西京大学農学部(現在京都府立大学農学部)において会長出席のもとに評議員会を開催.1954—1955年度幹事として林 久男,堀尾貞太郎,小林 洋,緒方正美,岡田慶夫,岡垣 弘を選出,この年の秋東京において総会を開催することに決めた.又会長提案による学会名を日本鱗翅学会と変更する案及び秦 凱彦提案の事務所を大阪市東区今橋3—18 緒方病院内に移転する案をいずれも全員一致で可決.これに伴い会則の一部を修正することも決められた.

つづいて同日午後,同所において第1回総会を開催.江崎会長の″ヨーロッパの鱗翅類研究の現況″と題する講演があり,終了後懇親会を行ったが,出席者は25名で学会の再出発にふさわしい盛会であった.

10月21日 東京都上野公園の国立科学博物館において総会を開催.総会は新しい試みとして″種以下のカテゴリーの区分″についてのシンポジウムを行った.出席者33名.終了後箱根強羅にて懇親会を開催.この日評議員会も開き1955年度より会費を年額300円とすることに決定.

昭和30年 (1955年)

4月12日 評議員会において″蝶と蛾″の欧名″Butterflies and Moths″を″Tyō To Ga″に改めるという会長提案を可決.第6巻第1号よりこの欧名を採用することに決めた.又総会は9月に京都で開催と決定.

5月15日 ″蝶と蛾″第6巻第1号を発行.この号より連絡紙として孔版印刷の″やどりが″を附することとし,その第1号を同時に発行した

9月25日 京都市平安高等学校において総会を開催.″和名について″のシンポジウム及び阪口浩平会員の蝶の生態カラースライド映写あり,出席者25名,その後懇親会を開催した.

12月1日 7条よりなる投稿規定を″やどりが″第4号に公表.なお″蝶と蛾″補遺は経済的理由により第6巻から当分の間その発行を中止することになった.

昭和31年 (1956年)

4月26日 評議員会を開催(於京都市河原町四条春陽堂).1956—1957年度幹事として秦 凱彦,林 久男,井上宗二,小林 洋,緒方正美,岡垣 弘を選出.井上 寛評議員提出の会員章制定の案を可決.又総会を10月

に津市で開催することに決めた．

10月7日 三重県津市で総会を開催．阪口浩平会員のカラースライド〝貴船の溪谷〟映写あり，出席者21名．

12月10日 〝やどりが〟第8号発行，会員章図案募集を公表した．

昭和32年（1957年）

10月6日 東京都上野の国立科学博物館において総会を開催，蛾類同志会と合同で白水 隆，井上 寛両氏の講演をきく，同時に懇親会もかねた．出席者約70名．

12月10日 評議員会により次期会長として江崎悌三現会長の推薦を決定，また1958—1959年度幹事として春田俊郎，秦 凱彦，林 久男，井上宗二，小林 洋，六浦 晃，緒方正美，白水 隆を選出．

12月14日 江崎会長死去．

昭和33年（1958年）

2月15日 〝蝶と蛾〟第9巻第1号を江崎会長追悼号として発行，江崎会長の功を永久に記念するため会報題字に同会長の筆蹟を採用することにした．

6月29日 札幌市において北海道鱗翅目同好会と合同座談会を開催．

10月25日 この日現在の在籍会員によって名簿を作成，総会員数274名．

昭和34年（1959年）

1月30日 〝やどりが〟第17号において会員章図案を再募集．又毎月1回（但し10月及び12月を除く）第4土曜日午後に近畿甲虫同好会と共催で大阪市立自然科学博物館において月例談話会を開くことになった．

4月15日 評議員会により江崎会長の死去以来空席であった会長に大阪府立大学農学部一色周知教授を推薦，会員の承認を求めることになった．

6月1日 一色周知教授の会長就任決定．

8月8日—16日 大阪市高島屋百貨店において大阪府市教育委員会，朝日新聞社後援のもとに「世界の蝶展」を開催，同展解説書及び絵葉書を発行した．この展覧会は本学会主催のものとしては今までにない大規模のもので好評を拍し本学会の存在を明らかにした結果，新入会員は激増した．

10月19日 岡山市岡山大学農学部において総会を開催，一色会長の〝蝶の色彩について〟の講演及び若林守男会員撮影の蝶の生態カラースライド映写があり，出席者27名．

10月31日 評議員会において1960年度会費を400円と決定，11月15日発行の〝蝶と蛾〟第10巻第4号にその旨を公表，〝やどりが〟の印刷はこの時発行の第20号よりタイプ孔版印刷となった．

12月31日 評議員会により会則の一部を改正，会員の種類に名誉会長，名誉会員，賛助会員を加えて5種とし，会計幹事と編集幹事の兼任を認め，又会費は年度毎に計算することを明らかにした．

なお1960—1961年度幹事として春田俊郎，秦 凱彦，林 久男，井上宗二，小林 洋，六浦 晃，緒方正美，白水 隆，若林守男の9名を選出．

昭和35年（1960年）

2月13日 前年近畿甲虫同好会と共催で開催した月例談話会は参加者少数で不振であったので本年から本学会単独で，例会を開催することにし，この日その第1回を開いた．以後原則として場所は大阪市立自然科学博物館，日は毎月第2土曜日に開催と決めた．

3月15日 〝蝶と蛾〟第11巻第1号及び〝やどりが〟第21号を発行．〝やどりが〟は本号からタイプ孔版印刷ながら表紙つき30頁に及ぶものに変ぼう．又〝蝶と蛾〟第1巻から第10巻までの総目録を発行．

4月29日—5月10日 小倉市小倉玉屋百貨店において北九州昆虫趣味の会，小倉市教育委員会，朝日新聞社後援のもとに「世界の蝶展」を開催した．

6月1日 本年は創立15周年にあたるので，その記念行事の予定をこの日発行の〝やどりが〟第22号に発表．とくに国宝玉虫厨子の複製計画を公表，それに使用するヤマトタマムシの蒐集についての協力を求めた．

7月26日—8月7日　大阪市高島屋百貨店において「夏休みの昆虫採集展」を開催．後援は大阪府立大学農学部昆虫学教室，大阪府市教育委員会．

10月1日　国宝玉虫厨子の複製完成，この日新聞社各社を招き複製を公開，完成を公表した．又この日〃やどりが〃第23号を発行．創立15周年記念行事を次のように公表した．

1：国宝玉虫厨子の複製完成，2：昆虫科学展覧会の開催，3：記念講演会の開催，4：祝賀懇親会の開催，5：会誌記念号の発行，6：会員章の制定，7：記念品（マッチ，煙草，ハンカチ）の製作．

10月11日—23日　大阪市高島屋百貨店において日本昆虫学会近畿支部，近畿甲虫同好会と共催で「昆虫科学展覧会」を開催．大阪府，大阪市教育委員会，大阪市立自然科学博物館の後援を受けた．

10月16日　大阪市田辺製薬株式会社5階講堂において日本昆虫学会近畿支部と共催で公開講演会を開催，八木誠政氏の〃ウィーン国際昆虫学会の報告〃，阿江　茂氏の〃アゲハチョウ族の種間雑種の研究〃の講演及び岩田久二雄氏の映画〃母虫の労働〃の映写解説があった．このあと引きつづき同所において創立15周年祝賀懇親会を行った．出席者は90名に及ぶ盛会であった．

昭和36年（1961年）

2月19日　関東支部が結成され，第1回支部例会が東京都上野公園の国立科学博物館で開催された．支部の範囲は関東地方及び長野，山梨，静岡の3県．このため従来大阪で開かれている例会は関西支部例会と呼ぶことになった．

5月19日—31日　本学会後援により東京都銀座松屋において西村五郎会員の「蝶画展」が開催された．

6月10日　第15回関西支部例会を開催，次回より前年に決めた例会開催の原則を変更，開催回数はほぼ2ケ月に1回とし，その都度場所等の案内を出すことになった．

6月19日—7月16日　中華植物保護学会の招待をうけ，白水　隆，六浦　晃，緒方正美，秦　凱彦，若林守男（以上本会役員）及び萱島　泉の7名が大阪伊丹空港より台湾へ出発した．一行は全島を一周，各地の研究機関を訪問見学し，又採集を行い，7月14日には台湾大学に於いて公開講演を行った後，7月16日に帰国．

7月1日　在籍会員数500名を越す．

8月1日—9日　名古屋市オリエンタル中村百貨店において，名古屋昆虫同好会，朝日新聞社と共催で「世界の昆虫展」を開催．文部省，県市教育委員会の後援を受けた．

8月8日—13日　大阪市高島屋百貨店にて開催された「夏休みの昆虫展」を指導した．

9月12日—17日　八幡市井筒屋百貨店において開催の西村五郎会員創作「蝶画展」を後援した．

10月22日　福岡市九州大学理学部防音教室において総会を開催，会務報告後，台湾訪問団の報告（白水　隆，六浦　晃）があり，つづいて同団撮影の16mmカラー映画〃台湾の思い出〃が上映された．参会者約70名，同日夜那之津荘において懇親会を開催，久保快哉会員の8mm映画〃琉球に蝶を訪ねて〃を鑑賞した．出席者41名．なおこの日現在の在籍会員数は544名と報告された．

12月10日　評議員会においてヒサマツミドリシジミの生活史を初めて明らかにした者に対し研究奨励の意味で賞金1万円を贈ることに決めた．

12月31日　会則の改正を評議員会で決定．主なる改正点は（1）維持会員を廃止，普通会員を正会員とし，会費を年額600円としたこと，（2）全国を4地区に分け，その地区に属する正会員中より評議員を選出することにしたことである．この日現在の在籍会員数は583名．

日本鱗翅学会会報〃蝶と蛾〃
日本鱗翅学会
大阪市東区今橋3丁目18　緒方病院内
振替口座京都15914番　電話 北浜(231)3255 代
1962年8月20日

Published by
The Lepidopterological Society of Japan
c/o OGATA HOSPITAL No. 18, 3-chome
Imabashi, Higashiku, Osaka, Japan.
20. Aug., 1962